

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 厚生館福祉会
施設名	のらぼう愛児園
報告者（役職）	白川由紀子（園長）
住所・連絡先	神奈川県川崎市多摩区菅5-2-1
	☎ 044-945-6331
	E-mail con1014@norabou.kouseikan-f.org

○タイトル（保育計画）

“ 育てよう！心の成長につながる健康な体 ”

○主な助成備品

集会用テント・巧技台・マット・鉄棒・大型積み木・紙芝居

### 1. 保育計画策定の目的

「健全なる精神は、健全なる身体に宿る」の名言の通り、乳児期・幼児期を問わず、子ども達のより良い成長に欠かせないのが健康な体づくりです。

本園は運動に特化したり音楽に特化したりする保育園ではありませんが、体づくりが保育の活動の中で重要な一つであると考えました。

年齢に合わせた多様な運動遊びの取り組みを遊具なども活用しながら行い、個々の園児の体の成長を促し育てていこうと思いました。そこで、平成29年に新園を立ち上げるにあたり、このタイトルのもとに全職員で日々の保育を計画し実践していくことにしました。

体づくりは、心づくりにもつながると考えました。

### 2. 具体的な実施内容

各年齢別に、保育の中で取り組んで行く運動遊びの内容を表にして、個々の園児の育ちを見取ることになりました。このことで、全園児の成長の様子を確実に確かむことができました。この表は次の年齢のクラスにも引き継がれ、個々の園児の育ちが、積み重なっていくようにしています。いろいろな運動遊びに取り組んで行く中で、巧技台やマット・鉄棒・大型積み木を活用しました。また、日々の取り組みの様子や、その成果を保護者の方に見ていただく場として、運動会を実施し、その際にテントを活用しました。また、体づくりに欠かせない食育活動も計画的に取り組む、その一つとして、視覚からも理解できるように紙芝居を活用しました。これらの取り組みは、子どもたちの体づくりに役立ってい

くだけではなく、運動遊びの幅を広げたり、保育内容の充実を図ったりと、保育の質を高めることにもつながっていると思います。

### 巧技台

普段は園庭に置いていますが、保育室に運んで室内でも活用しています。巧技台は跳び箱・平均台・梯子など種類も多く、数もあるので複数のクラスで取り組むことができます。また、園児の成長に合わせて、設定にも変化をつけることができます。

それにより、どの子も達成感を味わうことができ、次への意欲につながっています。



### マット

0歳児がマットの上でゴロゴロすることから始まり、年齢が上がるに連れて、前転・後転・側転などができるように取り組んでいます。複数枚あるので、室内用と屋外用とに使いわけて使用しています。跳び箱や鉄棒運動の際にも活用しています。

### 鉄棒

鉄棒は2セットになり、年齢や個人差に合わせて、設定の高さを変えて運動遊びに取り組むことができます。ぶら下がることから始めて、前回り、足掛け回り、逆上がりへと練習を重ねてきました。その成果は運動会で発表し、それが園児の励みになっています。



## 大型積み木

年齢の低い子ども達にとっては、運んで並べるところから、運動遊びになっています。また、どのように並べようかと考えることも楽しい活動です。楽しみながら自然と筋力をつけ、さらにバランス感覚等を身につけることができます。

いろいろな形や大きさがあるので組み合わせ方で、年齢や運動遊びのねらいに合わせて、多様な運動を促すことができます。



## 集会用テント

運動会は、近くの公園で実施し、これまでの運動会では他園のテントを借用していました。2019年度の運動会では、自園の名称の入ったテントを立て、ここに本部を置いて運動会を実施することができました。



## 紙芝居 (おいしい食べ物何でできてるの? たべるのだーいすき!)

食育教育の中で読み聞かせをしました。食べることの大切さを、紙芝居を通して学んでいったことで、偏食が減り、今まで以上にたくさん食べるようになりました。おかわりする子どもも増えました。また、そのことと共に、「ありがとうやごちそうさまの意味」や「食具の持ち方などの食事のマナーについて」も話し、身につけていくことができるようにしています。



### 3. その成果と評価

- ・身体を使って遊ぶ楽しみ方を、いろいろな遊具を活用して助長していくことができました。実施回数を多く重ねることで、子ども達の運動能力が身につくスピードが速まり、いろいろな遊具に親しみながら、自然と運動感覚を身につけるようにすることができました。また、これらは繰り返し行うことで徐々に身につけていくことができました。このことは、園児が根気強さも身につけることにつながっています。
- ・大きな遊具を整えることで、ダイナミックに遊ぶことができました。このことで、伸び伸びと過ごす姿が助長されました。ダイナミックな遊びに、子ども達はより意欲的に取り組むことを保育士も実感できました。
- ・遊具が充実したことで、複数のクラスが同時に運動遊びに取り組むことができました。機会を多くすることで、運動する楽しさを多く味わうことができます。また、園児一人ひとりの個人差に合わせた運動遊びの設定が可能となり、そのことで、園児は自分のできたことへの満足感を得ることが増えるとともに、自信を持つことができる機会が増えました。また、それは心を安定させることにつながっています。
- ・友だちとの集団での運動やそのルールを守ることを体験しながら、お互いを認め合うこと・協力すること・譲り合うことなど、人との関わり方を自然と学んでいたと思います。いろいろな運動に取り組むことで達成感・充実感を味あわせ、やればできるという自尊心を養うことができましたと思います。困難なことにも挑戦し、自ら歩き出す力をつけるとともに、あきらめない心も身につけていっていると感じます。日々の保育の中で、人との関わり方をわかるように話していくということも多くありますが、このような活動を通して子ども達が身につけていけるものだということを、保育士は実感することができました。
- ・保育士が、運動遊びを通して、筋力や骨格の発育発達を促し、健康な体をつくる基礎をつけていることや、危険を察知しそれに対応する能力を身につけ、見通しを持って安全に行動する力をつけられるようにしているという意識を持って、指導するようになってきました。
- ・運動会・発表会などの発表の場を体験することで、子ども達がこのような体験後に自分に自信を持ったり、一回り大きく成長したりすることを、保護者も全職員も感じることができました。
- ・運動会でテントや遊具を活用することで、運動会の環境や、競技内容が充実しました。保護者からも良い評価をいただいています。
- ・園児は、保育士や友だちと給食を共にすることで、身体を作り出す食べ物や食すということへの興味や関心を持つことができます。
- ・絵本を通しての食育は、食事への関心をより持つことができると共に、絵を通して子どもの脳裏に映像として残り、それを実際の食事と結びつかせることができました。

- ・保育士だけでなく、栄養士も共に取り組み、園全体で食育教育に取り組む意識や体制を整えることができました。

#### 4. 今後の課題と展望

- ・体をつくることと食の大切さを、今後も常に意識して日々の保育の中で、計画的に取り入れていくこと。
- ・子どもの育ちに合わせて、どのような遊具を整えることが必要であるか、整え方はどのようなであると良いのかを、保育士が子どもの実態を見極めて運動遊びを進めていくこと。
- ・子ども一人ひとりの運動遊びの育ちの成果を記録して、今後活かして継続して行っていくこと。
- ・保育士と栄養士、職員全員が常に保育全般にわたり連携していくこと。

これらを、本園が今後も継続して取り組んでいくことで、本園に通う園児が心身共にさらに大きく成長する力をつけていくことができると考えます。安全への配慮を最優先しながら、子どもの成長発達には個人差があるので、そのことも十分に配慮しつつ、決して無理にさせることなく、全職員でさらなる体づくりに取り組んでいきたいと思えます。

次世代に生きる子ども達の教育を、本園の保育を、今後も進めて園児のよりよい成長を育んでいきたいです。

以上